

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（泊3号炉）
（564）

2. 日時：令和5年8月25日 10時00分～11時45分

3. 場所：原子力規制庁 8階A会議室（一部TV会議システムを利用）

4. 出席者：（※ TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

宮本上席安全審査官※、秋本主任安全審査官、片桐主任安全審査官、

平本安全審査専門職

技術基盤グループ シビアアクシデント研究部門

平等技術研究調査官、堀田技術参与

北海道電力株式会社：

原子力事業統括部 原子力安全推進グループリーダー、他11名

原子力事業統括部 部長（審査・運営管理担当）※、他8名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. その他

提出資料：

- (1) 泊発電所3号炉 重大事故等対策の有効性評価 補足説明資料（SAEH r. 2. 0）
- (2) 泊発電所3号炉 重大事故等対策の有効性評価 補足説明資料 比較表（SAEH-9 r. 1. 0）
- (3) 泊発電所3号炉 ヒアリングコメント回答リスト（有効性評価 補足説明資料）
- (4) 泊発電所3号炉 前回審査資料に対する記載適正化箇所リスト 有効性評価 補足説明資料
- (5) 泊発電所3号炉 重大事故等対策の有効性評価 付録3 重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて（SAE11 r. 4. 0）
- (6) 泊発電所3号炉 重大事故等対策の有効性評価 比較表 付録3 重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて（SAE11-9 r. 4. 0）
- (7) 泊発電所3号炉 ヒアリングコメント回答リスト（有効性評価 付録3 重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて）

- (8) 泊発電所3号炉 前回審査資料に対する記載適正化箇所リスト 有効性評価 付録3 重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて
- (9) 泊発電所3号炉 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」に係る適合状況説明資料 1.0 重大事故等対策における共通事項 (SAT100 r. 10.0)
- (10) 泊発電所3号炉 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」に係る適合状況説明資料 比較表 1.0 重大事故等対策における共通事項 (SAT100-9 r. 9.0)
- (11) 泊発電所3号炉 前回審査資料に対する記載適正化箇所リスト 技術的能力 1.0 重大事故等対策における共通事項
- (12) 泊発電所3号炉 前回審査資料に対する記載適正化箇所リスト 技術的能力 1.0 重大事故等対策における共通事項 (可搬型重大事故等対処設備保管場所及びアクセスルート)
- (13) 泊発電所3号炉 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」に係る適合状況説明資料 1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等 (SAT102 r. 11.0)
- (14) 泊発電所3号炉 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」に係る適合状況説明資料 比較表 1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等 (SAT102-9 r. 10.0)
- (15) 泊発電所3号炉 前回審査資料に対する記載適正化箇所リスト 技術的能力 1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等
- (16) 泊発電所3号炉 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」に係る適合状況説明資料 1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等 (SAT104 r. 11.0)
- (17) 泊発電所3号炉 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」に係る適合状況説明資料 比較表 1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等 (SAT104-9 r. 10.0)
- (18) 泊発電所3号炉 前回審査資料に対する記載適正化箇所リスト 技術

的能力 1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却
するための手順等

以上

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	規制庁アキモトですそれでは本日のヒアリングを開始します泊発電所3号炉、重大事故対策の有効性評価等ですね。はい。それでは、事業者から説明をお願いします。
0:00:16	はい。北海道電力の大城です。それではまず初めに有効性評価のうち、資料1-2、1-3を用いて補足説明資料についてご説明させていただきます。1-3の
0:00:27	ヒアリングコメント回答リストをお願いします。
0:00:37	はい。コメント1件ありまして、内容ですけども、女川の補足23の溶融炉心落下位置の偏りの表、影響評価について、必要性を改めて検討の上説明することと、
0:00:48	ということで右に回答概要ですけども、泊3号炉においても、女川の補足23の、溶融炉心落下一戸偏り影響評価と同様に、偏心位置における、計装案内管の破損による溶融炉心の落下様態を想定した水蒸気爆発の影響を評価し、原子炉格納容器の健全性が損なわれないことを確認しましたと。
0:01:07	ということで、新規に補足説明資料10というものを作成しております。
0:01:12	資料1-2の比較表を用いてご説明させていただきます。一番後ろの、補足10-1ページをお願いします。
0:01:33	はい。補足10-1ですけども基本的には左側に女川の補足23を並べてそれと比較する形で、補足、泊の補足10を作成しております。
0:01:44	内容なんですけども女川では現実的な条件に緩和して、評価をしているんですけども、まとまりは基本ケースの保守的な条件での評価結果をベースにしまして、
0:01:58	返信偏りを考慮して5倍の圧力下をLS-DYNAに入れて、それを用いた構造解析によって、下部キャビティが健全であるということを示した資料というふうにしております。
0:02:12	1ページは概要ですがちょっと飛ばしまして2ページをお願いします。
0:02:19	はい。2ページが評価方法。
0:02:22	(1) 評価条件というところでポツの境界条件設定方法のところですけども、偏心影響として、原子炉容器近傍の壁面から最も近い

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	場所に設置されたケース案内管が破損し、溶融炉心が流出したことを想定すると。
0:02:35	水蒸気爆発元と、原子炉下部キャビティ側面の一部の距離が短くなりますよと。
0:02:41	それを踏まえまして偏心により、水平距離が短くなる、原子炉下部キャビティ側面に対しては、その距離によらず、基本ケースに対してえられた壁面圧力分布全体に対して一様に5倍の圧力が発生するものと想定し、
0:02:56	LS-DYNAに対する境界条件として設定しましたと。
0:02:59	なおその他の壁面については、偏心により水平距離が長くなるが、その効果を考慮せず基本ケースと同じ壁面圧力を評価条件として設定するというので、アノ5倍。
0:03:10	の妥当性ですけども、10-9ページをお願いします。
0:03:20	はい。こちら別紙1として資料作成しております。下の図1ですけれどもこちらが基本ケースにおける現象下部キャビティ側面の圧力履歴、
0:03:30	になります、最大圧力は約4.8MPaということで、5倍と設定した場合の最大圧力は約24MPaになりますけれども、基本ケースのJASMINEコード解析の結果からえられた枠発言。
0:03:43	の最大圧力。
0:03:45	が約23MPaということでそれを超える極端な設定をしているというふうに考えておまして、この条件は、5倍というのは保守的であるというふうに考えております。
0:03:55	続いて、資料5ページにすみません戻っていただきまして、
0:04:04	圧力、衝撃圧力の適用範囲と下の図ですね、下の図のところ、左側が衝撃圧力5倍の範囲ということで下部キャビティの壁面に近いところでの、
0:04:17	計装案内管、
0:04:19	からの流出を想定しますので近いところを5倍にすると、それ以外の部分は距離が遠くなるん。
0:04:24	ので圧力は下がると考える。
0:04:26	考えるんですけどそちらの不備については、保守的に衝撃圧力の変更なしということで、
0:04:31	倍で、指標解析をし、実施しております。
0:04:36	解析結果ですけども、中の、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:40	8 ページ。
0:04:41	をお願いします。
0:04:49	はい。上の表 1 ですが、コンクリートの部分が最小中ひずみ、
0:04:54	が下部コンクリートで最大 1416 マイクロに達しておりますが、下処理圧縮強度に対するひずみである許容値 1114 マイクロ超過しているものの、キャビティ内壁トンネル内壁及び階段室の表層
0:05:09	表面の層に限定されており、全断面での Q 値は、超過していないということで下の図ですね、下の図で、ごく一部の部分が超過しておりますがその他の部分は、大半が許容値以下ということで、
0:05:24	問題ないというふうに考えております。
0:05:27	以上から、コンクリートは表層部の限定された範囲外の部分が許容値である圧縮強度相当のひずみ以内であり、鉄筋には塑性ひずみが発生しておらず、弾性範囲内であることから、溶融炉心が、
0:05:39	偏心位置に落下して水蒸気爆発が仮に発生したとしても、
0:05:44	衝撃荷重により、原子炉下部キャビティ壁の鉄筋コンクリート構造が全体的に崩壊する。
0:05:49	ような挙動となっておりますので、構造健全性が維持され、原子炉格納容器の健全性が保たれるということを確認いたしました。
0:05:58	はい。こちらの資料については以上となります。
0:06:02	あと続いてヒアリングコメントではないんですけども、前回ちょっとヒアリング時に、
0:06:10	話があった点として補足 8-2 ページをお願いします。
0:06:18	こちらちょっとマスキングですので、
0:06:21	図 2 の説明でちょっとマスキングですので、マイクを切らせていただきます。
0:07:11	規制庁アキモトですそれではここまでの説明のところで確認に入りたいと思います。
0:07:18	結局あれですね補足 10-9 ページを見ると、
0:07:25	これはちょっと確認だけなんですけどその図 1 の、
0:07:29	左、左の何ていうんでしょう圧力覇権みたいなのは、理解できたんですけど、右側のコンター図みたいなもの。
0:07:38	なんすかねセール、22 からニイツ 37 っていうのはこれとどういうことですか。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:44	はい。大木です。
0:07:46	右側のセルはですね、歌舞伎、下部キャビティ壁面を表しております下からセルの 22、2324 で上に行くにつれて 37 ということで、左側のグラフのその色に対応した、
0:07:58	それぞれの圧力か。
0:08:00	を示していると。
0:08:02	右側、下部キャビティの壁面を示しております。
0:08:07	はい。
0:08:08	ちょっと上の、黄色い部分が気相部なんですけども、その、その左上のところがちょっと何か、下が、隠してるコガオカアマノそこになると。
0:08:18	お釜の中心から M e l t が溶融炉心が落下して、
0:08:24	ということで一番左の軸のところの中心軸のところ溶融炉心が落下して水蒸気爆発が発生すると。
0:08:31	それ、中小
0:08:33	この図のはそうですね本当は左側のところで溶融炉心が落下して水蒸気爆発が発生して右側のアノせるって書いてるところの壁面に圧力下が伝わると。
0:08:42	ということになります。
0:08:47	いや、規制庁アキモトちょっとこれは多分、私、ちょっと、何ていうんでしょう。誰でも一般的にわかるように、
0:08:55	何て言うんでしょうそれこそ、黄色の部分が気相デイとか、
0:09:01	なんかちょっとわかるように説明を追記してもらえないですかね。
0:09:07	はい。大木です。図がわかりにくくて申し訳ございません原子炉圧力容器とかですね、下部キャビティだとかその辺がわかるような形で図を修正したいというふうに思います。
0:09:18	規制庁アキモトでそれで、その上で、だから結局これ、5 倍っていうのは、
0:09:25	バグ発言そのものが、
0:09:28	壁にあってもっていうふう、大丈夫ですよっていうことを折衝説明したいっていうことで、
0:09:37	はい。当時は爆発元の一番高いところでも 23 名ということそれを超えるものを与えても問題ないということですねそのような形になります。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:47	規制庁秋本ですわかりました。それってあれですかね、すみませんちょっとあんまりPWRちょっと詳しくなくてあれなんすけど。
0:09:55	10-8、ページ、18 ページで、
0:10:00	あれですPWRは、
0:10:04	加治RPVとかの荷重は、
0:10:08	コンクリーも受けてるっていう理解でよかったんですけど。何だっけ。
0:10:14	明日、鍛冶加治どこ受けてるのかだけなんですけど。
0:10:18	はい。青木です。BWRですとペDESTALという、後半の壁になるんすけど、PWRこの恐れ通りこのか、コンクリートコンクリート全体で厚いコンクリート全体を支えていることになります。
0:10:34	規制庁秋元です。だから、コンクリートは表層ぐらいしか損傷を受けてないから、全体的には健全だから大丈夫ですよっていうロジックですね。はい、わかりました。
0:10:48	すみませんその他ありますけど。
0:10:50	はい。堀田さんどうぞ。木内堀田です。今の構造的な話ですPの場合は、
0:10:56	基本的にこのキャビティよりもっと上の方で、
0:11:00	ぶら下がってるって感じですよ。
0:11:03	ですので、キャビティ。
0:11:06	はあまり関係ないかな。
0:11:08	いけば水中が上がって、
0:11:10	RPが揺らされるかとかそういうところはあるんですけど、それは
0:11:16	事実上あんまりこう、
0:11:18	考えなくていいと、いうことかと思えます。
0:11:22	ですけどもちょっとこの偏心落下の解析のやり方、
0:11:28	入口の話からさせていただきますけど、これはあれですか、JASMIN Eで、
0:11:33	この4.8MP a 数字ですけど、解析した結果、
0:11:39	だと思えるんですけど、この場合のJASMIN EはJASMIN E地保軸対称構造なので、
0:11:45	変身した位置と、最近接の壁の距離、これ半径にした。
0:11:51	閉空間でやられたと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:54	ということですか。
0:11:56	はい。青木です。J A S M I N E おっしゃる通り円筒座標系の子兵頭コードですのでちょっと偏心を模擬するのが難しいというところもあってこれはあくまでベースケースをそのまま5倍にして、圧力は与えました、Aさんの方に与えました。
0:12:10	すいません。堀田ですけども4.8MPaってのは、ベースケースってのは、
0:12:17	全体系の中心に落ちましたと。ですので、大体は、
0:12:23	下部ヘッドの真ん中カーがあると思うんですけども、
0:12:26	そうすると変身ということになると、もし仮に偏心を考えるとなるとですね、
0:12:31	例えば、変質ってのは壁というのは、比較的エレベーション高いところになったりするんで、落ちてくるデブリの量とか、
0:12:40	本当は減ってくると思うんですがそういうことは考慮してないということですね。はい。大木ですおっしゃる通り、女川なんかでは現実的な条件としてその辺の条件を変更した解析をしておりますが、PWRでは5倍という極端な設定にしても、下部キャビティの検査示せるということで、ベースケースの5倍で、条件を変えずに、
0:13:00	溶融物の落下量とかその辺はベースケースのまま、保守的な条件のまま、
0:13:04	5倍にしてさらに5倍にした評価というふうにさせていただきました。
0:13:08	倍なんですけども、
0:13:11	例えば、J A S M I N E を実際に、最近接距離の閉空間にしてやったものと比較された結果、
0:13:19	なおかつ5倍で崩落してるということなのかそれとも、
0:13:23	今の説明だけだと、ちょっとこう、
0:13:26	定量感がないなっていう感じがしたんですその辺はどうなんでしょう。
0:13:34	栗城管北海道電力シバタでその繰り返しの説明になるんですけども、この5倍とした根拠は 10^{-9} の
0:13:42	もともとのベースケースにおいて、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:45	壁面ではなくて、発生、1 最大発生圧力を拾ってきて、それより大きいというふうなところを、保守的な根拠としたのが設定の考え方でございます。
0:13:58	です。いまいち伝わらないですね。それはわからない。やはり J A S M I N E ご存知の通り円筒座標系で
0:14:07	返信ができないっていうふうなところからある程度保守的な設定っていうふうなところで、ベースケースを使っているんですけども、ベースケースの壁面ではなくて、
0:14:18	圧力が最大となったものを上回るように設定したというふうなところに
0:14:25	偏心よりも、ある程度保守的な値を拾ったというふうな考え方をとってございます。
0:14:35	すいません。少し先へ進めたいと思います。
0:14:39	まずですね、
0:14:40	L S - D Y N A なあ。
0:14:43	に、
0:14:45	荷重条件を受け渡すとき、
0:14:47	例えば、
0:14:49	エネルギーであるとか、
0:14:51	圧力履歴、
0:14:53	まあ、普通、インパルスでいいですけどね、インパルスマティスかもしれない。それは、
0:14:57	保存するような形で、
0:15:00	或いは、若干包絡する形で、
0:15:03	やるのが通常だと思うんですけどその辺の説明が御説明がちょっとこう、抜けてるかなと。
0:15:09	いう。
0:15:11	ところが一つですね。
0:15:13	そして阿藤 L S - D Y N A で、
0:15:16	これ鉄筋ですとかコンクリートをどうモデル化したかっていうのは、
0:15:20	私は非常に重要で、BWRの先行例ではその辺は、
0:15:25	かなり詳細に、これ、当然マスキングの領域になると思うんですけども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:30	その辺は詳細に我々の方にも伝わってきてますそそういうものを持ってこう、
0:15:37	鉄筋の配置ですとかコンクリート、あと双方の
0:15:43	コウセイソクとか破壊、
0:15:45	モデルですね。
0:15:47	そういうものをもって、妥当かどうか判断するんですけど、その辺の情報が
0:15:55	はっきりと全くないなど。
0:15:57	いきなりもう結果に入ってるというところなんですけどその辺は、
0:16:03	追加していただくわけにいかないでしょうか。
0:16:07	はい。青木です。本資料ちょっと女川、
0:16:10	藤比較する形で作成した関係もあり、ありましてベースケースがある前提で、そっからの変更点を記載してる資料となっております。本ベースケースの方はですね添付し、FCIの方の添付書7.2.3.1というふうに、
0:16:24	アノの方に記載しておりますそちらの方にはJASMINNEでの、当然主要解析条件だとかそのコウセイソクの話に記載しております。それもこっちに入れた方がいい。
0:16:37	ユーロ強いということであれば、補足のほうにも同様なものを追加しようかなというふうに思いますすいませんそこまで調べなかったんで申し訳ないんですけども、ちょっと確認しますけども、NSライナーの説明も入ってると。
0:16:50	はい。青木です。はい。添付資料7.2.3.1というところのところに12ページというところですけども構造と解析としてLS-DYNAの条件とかですね、コンクリートの材料特性、
0:17:02	鉄筋の材料特性、鉄筋の応力ひずみ曲線等等など、つけております。
0:17:09	ちょっとおったですけども、その辺はちょっとBのマスクングの箇所と比較しながらちょっと質問をしていきたいと思うんですけども、例えば、
0:17:19	鉄筋なんていうと、
0:17:21	通常はビームで、
0:17:23	モデル化すると思うんですね、コンクリートはソリッドという要素かと思えますね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:29	この辺は、
0:17:32	その通りでよろしいですね、ビームを使わずにプレートで近似してるとかそういう、そういう意味でもいいんですけども。
0:17:43	はい。ちょっとアオキですちょっとそのあたり、詳しくないので、また別途説明させていただきたいと思えますけども補足 10-5 に記載してる通りですね鉄筋に関しては等価板厚してるということで、もう模擬して評価してるんですけども。はい。
0:17:58	コンクリートの、
0:18:00	破壊則っていうのは、
0:18:04	多分有名なところではR H Tモデルとか使うと思うんですけども、
0:18:08	この場合は何を使ってるんですかね。それを使ってるっていうことなんですかね。強度の判断条件があるじゃないですか。それ見ると、何かR h tモデル使ってるのかなっていうのがあるんですけども。
0:18:20	その辺はどうですか。
0:18:24	はい、青木です。ちょっとすいませんそのあたり、勉強不足で、また改めて勉強してご説明させていただきたいと思ってますけども、K C Cモデル、非線形材料特性、
0:18:35	を表現する可能なK C Cモデルというものを使ったルートで鉄筋やバイリニア型の弾性モデルを弾塑性モデルを使って評価しております。はい。
0:18:44	江藤堀田ですけどもすいません。衛藤。
0:18:47	比較できる数字がBのものと、若干差があるので多分その辺のコウセイソク破壊条件等が異なっているのかなと。
0:18:57	いうことを感じたので、
0:18:58	できれば、ここに追記してもらったらいいのかなっていうふうに、今、改めて、
0:19:04	思った次第です。
0:19:06	ですね。
0:19:08	ここまでの質問というのは
0:19:11	どういうことを言いたいかという、要するにこれをもって、妥当な評価してるなって判断するやつ情報が足りないんじゃないかなっていうところを、
0:19:20	感じています。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:22	もう一つ、
0:19:26	中、その1にですね、補足の10-9 ページ目2、
0:19:30	圧力履歴があるんですが、これインパルスは見てみ見られましたでしょうか。
0:19:37	はい。大きくちょっと説明抜けておりました。インパルスの方も確認しておまして、100kPa sec以下であると、具体的に言いますと80から90程度というところで、確認しております。
0:19:49	堀田ですけども、
0:19:52	わかりました。かなり
0:19:55	数字としては、
0:19:57	大きいかなと。表面、表層が壊れるとかそう書いてあるので、多分そういうことは起こり得るだろうと。
0:20:05	であるならば、やはりですね、鉄筋コンクリート製系のモデルについては、
0:20:13	どこまでこう、どれぐらいの精緻さでモデル化するかと。
0:20:19	いうところを、やはりこの中で読めるようにしないと、
0:20:22	衛藤。
0:20:25	その方が、何かと。
0:20:29	参照する場合に、我々としても、
0:20:31	ありがたいなといったところで、
0:20:34	はい、青木です。
0:20:36	繰り返しになりますけども基本ケースの方は、添付資料の方、7.2.3とFCIの方につけておましてそちらの方にはそのあたりの話、記載しておりますのでこちらの補足10の方の返信を考慮した場合の方、評価においても同様な資料構成としてわかりやすい資料に、
0:20:52	に修正したいというふうに思います。
0:20:56	前この編集楽観については、これがちょっと最後の、
0:21:01	別途質問になると思うんですけども、
0:21:04	今回、今回に関しては、
0:21:07	5倍っていうファクターですね。
0:21:10	やはり気になるのは、
0:21:12	JASMIN Eを閉空間でやった場合に、
0:21:16	と比較して、
0:21:18	本当に5倍にする必要があったのかどうかと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:22	ということですね。
0:21:23	それは80kPa秒というインプレスは決して小さい値ではないと。
0:21:30	いうことを思っまして、
0:21:33	その上でやっぱ5倍程度必要だってことであれば、
0:21:36	やはり精緻なモデルでもって、部分的なコンクリートの破壊とか、そういうことを、
0:21:44	評価されて、
0:21:46	いると思いますので、そういうものをもって、妥当かどうかでこと判断だと思うんですけども、
0:21:51	その5倍っていうものが、
0:21:54	80kPa病棟、比較した場合に、
0:21:57	直接因果関係があると思うので、
0:22:00	そこを、
0:22:02	今一度ちょっと説明。
0:22:05	検討していただければありがたいなと思います。
0:22:11	はい。ちょっと繰り返してしまいますがやはり円筒座標系で編集を模擬するのに厳しいことと、あとはやっぱりPWRはある程度余裕があるんで、100kPaっていう、
0:22:23	ふうな知見もえられてるナカマそれにして相当を、かなりそれに近接するような大きい値入れても壊れないってことを示すことによって、変身しても、ある程度妥当だというふうな、
0:22:35	ことを示すのが今回の大きなストーリーだったんですけども、
0:22:41	今のご指摘は、やはりJASMINEを返信で、
0:22:45	徳古藤。
0:22:47	05倍をする
0:22:50	補強すべきっていうふうな、
0:22:52	ご出身というふうな受けとめたんですけども、必ずしもそうではなくてですね、すいません堀田ですけど、もう少し定量的な、
0:23:01	根拠は、いただきたいというところですね。
0:23:06	例えば、
0:23:08	この下1JASMINEのベースの解析でも、圧力というのは、これ、
0:23:14	ちなみにトリガーはどこでかけてるんですけど。
0:23:17	ボトムですかね。それとも、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:20	へえ。
0:23:22	ボトムではなくてですね
0:23:28	J E T 先端で設定しております。
0:23:31	Z 先端で予混合量が最大になったんですね。はい。そういうタイミングですね。その時、ジェット先端と、例えば床の距離、
0:23:41	てありますよね。それと、今の偏心の最近接の壁との距離、
0:23:46	低角すると、案外そこの方を参照すれば、
0:23:50	一つ、
0:23:51	す、定量的なバックやられるかもしれないと思ったりもするんですが、
0:24:00	はい。それであれば再解析、シバタですそれであれば再解析する必要はなくて
0:24:09	既往の
0:24:11	解析結果を参照するような形である程度ご説明ができるかと思えますんで、再度確認させていただきたいと思えます。
0:24:19	小田です。最後と言いながら、ちょっともうちょっと追加させていただきたいんですけども、この今回の J A S M I N E の入力食うパラメーターっていうのは、
0:24:29	B の場合はですね、
0:24:31	S E R E N A つうの、ベースにした不確かさ解析っていうのを我々もやっていたので、そういうものも参照しながらっていうところがあったんですけども、
0:24:42	仮に大飯 34 号の確認のときの入力だとしたら多分それ以前の話なんで、
0:24:49	この入力っていうのは
0:24:52	そういったものを踏まえたものを、要するに S E R E N A I I を踏まえたものなのか、それとも、歴史的にこう使われてきたものをそのまま使ってるんだっていうのはどう、どうなんでしょう。
0:25:05	はい。藤青木です。ちょっと正直そのあたり、確認できておりますので、確認させていただきますけども大飯 34 からはですね、さらに最新知見といいますか、
0:25:16	より大井も当然、保守的な条件でやってるんですけども、まとめりも
0:25:22	より適切な条件で設定してるというふうには考えておりますので、確認して説明させていただきます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:29	はい、堀田です。
0:25:34	そうですね 100 k P a 秒の話に関しては、
0:25:37	実は S E R E N A アノ。
0:25:39	例えば世良名和んていうんですかね。
0:25:41	あそこで
0:25:42	解析コード同士の比較のベンチがあって、
0:25:47	そこでそのあと S E R E N A ツールで実験が行われたんだけど も、それ以前の、
0:25:53	話として、
0:25:55	やられてるわけで、別にダイナとかオートダインのような構造解 析をやった上での、
0:26:03	話ではないというふうに私たちは理解してるんですね。ですの で、当然現時点では瀬野津野の知見もあるし、
0:26:11	そういう S C I コードってのはより
0:26:17	確からしい。
0:26:18	現実的な数字オダタカキ出すと。
0:26:21	いったことも期待できるのでそういうものを踏まえてる上の数字 なのかどうかっていうところは、ちょっと押さえた方がいいかな と思います。
0:26:30	はい、青木です。はい。いただいたコメントを踏まえて、また別 途説明させていただきます。
0:26:38	規制庁秋本ですその他、いかがでしょうか。
0:26:41	あります。
0:26:58	観点で、
0:27:00	いいですか
0:27:12	すいません規制庁の平良です。
0:27:14	ちょっとまずちょ最初は
0:27:18	今回の十勝じゃなくて九州のところなんですけれども、ちょっ と、
0:27:23	この図、5 次的な部分からちょっとお話。
0:27:26	したいんですけど九州の。
0:27:29	あごめんなさい、ごめんなさい補足 9 です。
0:27:35	資料 1 の補足 9 のところの絵と、
0:27:38	2 ポツがあると思うんですけどその次に、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:43	比較表だと女川の方に3ぽつあるんで、ですけど、翁長衛藤泊の方はなくて4章の参考文献が、
0:27:52	泊だと2から4に飛んでるのかなってのがちょっと気になったっていうのと、
0:28:27	はい。大木です。失礼いたしました女川3ポツで感度解析をしているところ、泊では省略してますので、ここは3ポツになると思いますので、修正させていただきます。
0:28:39	はい。続けて規制庁の平良ですけれども、あと、補足9-9のところになります。
0:28:50	最初の段落のところの加熱度10ケルビンを競う静穏度に対して、
0:28:57	というところなんですけれども、これで保守的な設定としてあるんですが、これはご指摘。
0:29:04	てのは、
0:29:06	本当に保守的なのかなって少し気になったんですけれども。
0:29:09	こちらってご説明していただけますか。
0:29:19	はい。青木です。ちょっとマスキング部分があるんですけどもその、
0:29:25	結果マップの結果からそのマスキングで記載してる。
0:29:30	温度よりも、それを包絡する条件として10ということで、保守的な設定になっているというふうに考えております。
0:29:40	規制庁の平衛藤翁長の方ではその200ケルビンと大分差が、
0:29:46	あって、それに対してその10っていうところで、
0:29:50	ちょっと桁が違うからそれをもって、
0:29:53	ご指摘なのかなってちょっと思ってしまったんですけどそれでもう、
0:29:59	ウノ値よりも、
0:30:01	大きいからご指摘っていうふうな説明になっているということでしょうか。
0:30:07	はい。青木です。ちょっと詳細は、
0:30:13	今ちょっと答えられませんが、PWRとBWRでは、やはり熔融炉心の物性とかですね、もろもろ組成が異なっておりますので、
0:30:24	MAAPの解析結果よりも具体的な絶対値で、何ケルビンを大きくすればいいというところというよりはMAAPの解析結果よ

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	り、高い値を設定しているというところで、保守的な状況になっているというふうに考えます。
0:30:38	規制庁の平良ですありがとうございます。
0:30:40	あと、そのページのところの下の段落のところなんですけれども、
0:30:46	ここのところで
0:30:52	本評価ではってところの場所で、
0:30:57	キャビティに落下した、そういうの堆積高さにつき基づき保守的に設定しているっていうんですけどその次の段落でもご指摘って書いてあって、
0:31:06	保守的だからすなわち保守的っていう説明がちょっと。
0:31:11	わかりづらいなって思ったんですけども。
0:31:16	はい。青木です。おっしゃる通りちょっと文章、ちょっといまいちなところあると思いますもう一度改めて見直しまして適切な文章に修正する方向で検討したいというふうに思います。
0:31:29	ちょっと谷津ありがとうございます。あとごめんなさい、もう1個後、誤字なんですけど次の、
0:31:34	11 ページの表なんですけれども、
0:31:37	もう本当に大したことない誤字ではあるんですけども、FCIのところの条件設定の妥当性と一番右のところ、2ポツ目のところで、条件設定の、ごめんなさい。
0:31:50	衛藤コウノ溶融プールが流通するもの。
0:31:54	やって、非比較表と、女川の比較を見るとものってあるので、多分のが抜けてるのかなという事です。すいません。
0:32:04	はい、青木です。申し訳ございません。するものだと思いますので、修正したいと思います。申し訳ありません。
0:32:15	規制庁秋本です。ありがとうございますちょっと今の、
0:32:20	関連して補足9-15ページ、参考文献出てるところで、
0:32:27	何か比較しているようで、何ていうか全く違うものが書いてあったりするようなものがあって、これってあれじゃないですか。
0:32:35	なんで、
0:32:36	そういう理由とか説明ないんですけど。
0:32:42	はい。青木です。
0:32:45	本文の方、多分、
0:32:48	ちょっと、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:32:49	その部分省いたところに、理由が、
0:32:53	ちょっと簡単に一言ですけど書いてあると思っておりますが、おっしゃる通り、確かに参考分岐のところにも、
0:33:00	配送理由を書いた方が、
0:33:02	わかりやすいと思いますので、各方向で検討したいと思います。
0:34:35	は規制庁アキモトですそしたらこれは、
0:34:41	資料1シリーズはよろしいでしょうか。はい、じゃあ続き、資料2シリーズですかね。
0:34:47	いきます。はい。お願いします。はい。北海道電力のサトウですでは資料2-3のコメント回答リストのほうをお開きいただきたいんですけども。
0:34:58	前回のコメント等、No.10が残りました。で、実機のMCCIの解析において床方向壁方向の熱伝達係数の設定についてコードの検証の観点から、
0:35:09	CCIⅢ実験の知見をどのように反応度に行っているのか説明してくださいというところなんですけれども、まずMAAP実機解析等、CCIⅡⅢの熱アイユ値対流熱伝達係数の方確認しました。その上で、
0:35:22	CCIツースリーから抽出できる知見とそれに対する当社の考え方について資料をまとめています。はい。
0:35:31	で、資料2-3の比較表の方に移っていただきたいんですけども、
0:35:35	こちらの比較表MCCI86台分後の方なんですけれども、
0:35:51	MCCI86ページ、すいませんちょっと読みづらいやつなんですけど、
0:35:56	はい。モデルの方ですね実機の方の解析で設定されている。
0:36:02	熱流束の考え方の
0:36:04	ところを記載しておりますので、
0:36:08	はい、大丈夫ですか。
0:36:10	こちらの方にですね実際の実機解析で、こういう、
0:36:14	モデルを使ってやっていますというので、推奨値設定させていただいて益子校はマスキングなのでちょっと具体的なことは説明を控えさせていただきますけどもこういうふうに設定しております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:26	それに対してなんですけれども、ちょっとページを戻っていただいて16ページの方ですねMCCI16ページ。
0:36:34	なんですけども、
0:36:36	はい。
0:36:38	ここの下線部が引かれている。今回、公開文献から追加した部分の中でCCS実験における対流熱伝達係数っていうのは、床面と壁面で同じ値を設定して、
0:36:52	おりますと、これ一の値はですね実機に先ほどお示しましたモデルにおいて実機の完全規制、液相状態の1桁小さい値として、
0:37:03	設定して、解析しました。で、それをもとにCCIⅢでは異方性というのが出てきているのでCCIⅡで設定したこの辺りに、壁面方向に対して床面が四分の一、
0:37:15	対流熱伝達係数として侵食の異方性をMAAPでは再現しておりますと、というところが対流熱伝達係数の比較というか関連性がなとを考えます。ただしここやはり実機が別途条件でのMCCIで、
0:37:30	CCIがドライ条件というところで、対流熱伝達係数自体の直接の比較というかここからの知見として抽出することはやはり困難だと思っていて、
0:37:41	それCCIツースリーから抽出できる項目というのは当社の方では侵食違法性のみというふうに考えておりますので、さらに、本来Wet状態で侵食違法性っていうのは発生するかは、
0:37:54	定かではありませんので、仮に違法性が生じたとしても、実機解析の現状のセットアップに対して、侵食量は小さくなることがわかります。なので、このことからCCI-2と3からられる知見っていうのは、
0:38:07	こちらの方では床と壁の対流熱伝達係数を変えて、再現した異方性のみが抽出できるというふうに判断しました。なので、実機解析は付して、現状保守的な評価があることがCCIⅡⅢから、
0:38:21	確認できておまして、そうするとウェット状態でこの異方性っていうのは、発生することが不明っていうのはご承知かと思うんですけども、その点で不明な現象を取り入れてあえて非保守的な評価となるような、
0:38:35	結果というふうにはせずに現状の保守的な評価をするということで、整理しております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:42	はい。CCMCCIについては以上で、もう一つですね前回ヒアリングの時に、溶融炉心の着水時のクラスト形成について、
0:38:52	説明を
0:38:54	クラストの、
0:38:55	成長ですね、について説明して欲しいというところで質問があったので、
0:39:00	これは、資料2-1のまとめ資料の方のP3の83。
0:39:08	ですねもうちょっとお開きください。
0:39:13	はい。
0:39:13	3-80あまりと今回いかがね。
0:39:17	はい。
0:39:21	ちょっとこちらの概念図があった方が、イメージが付きやすいかなというふうに思うんですけども。
0:39:26	図の3.3-13ですね、になりますはい。
0:39:29	ちょっとこちらはですねモデルのノウハウになるのでちょっとマイクオフで簡単にご回答差し上げたいと思います。
0:40:02	すいません。説明は以上となります。
0:40:05	規制庁アキモトでそれでは確認に入ります。こちらからありますでしょうか。
0:40:15	規制庁堀田ですけども、
0:40:19	侵食、異方性の考慮のところ、MCCIの評価の不確かさ、
0:40:26	に関する整理の表、表1、
0:40:29	4-1か。
0:40:30	というのが、
0:40:33	あると思うんですけども、この中で、
0:40:37	要請侵食の感度解析。
0:40:40	ていうのがない。
0:40:41	ですね、今回、実はBWRの方では、コンクリートの種類っていうところがそれでして、
0:40:47	そこでそのようなマスキングされた。
0:40:53	壁面方向に下方向のビジネススペースってのが言及されていて、
0:40:58	泊3号の場合はコンクリートの種類ってのは別の観点で、
0:41:02	分解ガスですね。
0:41:04	の観点で整理されてるんですけども、
0:41:08	ここでそれを、何ですかね違法性っていうのに言及する。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:13	というのはちょっと、
0:41:16	問題がありますでしょうか。
0:41:19	違法性のその感度解析っていうところなんですけれども、そこについては特に問題はないと思いますがやはり、ここCCISDの知見から、
0:41:28	知見とかベンチマークのところからえられているのは、片方向を、やはり耐熱係数を抑えることによって侵食が低減するっていうところで、今の評価がやはり保守的っていうところは定性的にもわかる部分では、
0:41:44	あって、より現在の評価をし、
0:41:47	ベストエスティメイトよりも、保守的っていうのは結果は明らかなのでやはりそこについては感度解析は不要かなと思っておりましてもう一つ逆に片側を4倍にして、
0:42:00	侵食をふやしたとしてもそちらについても、滞留ね熱流束と、侵食量についてはMCCIの方の添付資料2定性的に整理している通りやはりそちらについても影響が軽微なため感度解析自体は不要というふうに考えております。
0:42:18	ですけどもすみません、添付資料の7.2. 5.3 コンクリート侵食の異方性について、
0:42:26	というこ、これをちょっと手元になかったので、
0:42:30	内容はわからないんですけども、この解析結果で確認。
0:42:35	できてるのではないんですか。
0:42:44	はい、こちらは解析自体はしてなくて、その熱流束で考えるとこうっていうところで整理します。
0:42:51	その時の考えをもう1回、ちょっと確認させていただきたいんですけども。
0:42:55	仮に推進ⅠⅢ、
0:42:59	を合わせようとする、
0:43:01	一つの考え方として、壁面方向の熱を助け14倍にすると。
0:43:06	そうすると、なぜ
0:43:09	楽になるんですか。
0:43:11	ここに関しては壁面方向が4倍になるのでやっぱり侵食については大きくなるかと思うんですけども、そこは非保守的じゃなくて、保守的な評価になりうると思いますけどもやはり

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:43:23	影響っていうのは熱流束のなんか上昇値の観点からでも、そこまで大きくはならないとやはりW e t 状態っていうのもありますし、その影響は、進んでも数千中も見たいところかなと。
0:43:35	いうふうに考えてますので影響は軽微というところで、やはり感度解析不要というふうにて、
0:43:43	4倍にすると径方向にはより早く、
0:43:47	侵食しますよ。
0:43:48	W e t 状態。
0:43:51	だと。
0:43:52	そこまでは起こらない。
0:43:54	ていうのは、
0:43:55	どういう根拠でしょう。
0:43:59	凍らないというわけではなくて起こったとしてもやはり水との除熱、みずからの除熱っていう部分で、ドライだとやはりその侵食っていうのはスピーディーかなと思うんですけどもやはりウェット状態ってそのコンクリートとの熱のエネルギーのやりとりというよりは、
0:44:13	水との除熱のほうがやはり有意に進むので起こったとしても、軽微損益は軽微かなというふうに考えてます。
0:44:21	全体として軽微になるであろうというのは、わかります。
0:44:27	その上で、
0:44:29	違法性を考慮する必要がないっていうのは、
0:44:33	そうなるとですね例えばC C I Ⅲで実験で見られたコンクリート侵食って、決してそこはなくて結構早いんですね。
0:44:41	進んでるときは、
0:44:43	そういう非常に早い進捗に対して、
0:44:47	軽微になる。だから、考える必要ないっていうのは、
0:44:52	その部分でちょっと定量感が失われてると思うんですけど。
0:45:00	確認性少々お待ちください。
0:45:39	はい。先ほどのその侵食のスピードが早いっていうところ、ミクロな点で見るとっていうところなんですけどやはり全体で見ると小さいっていうところ。
0:45:49	確かに全体で見ると小さいっていうのもありますしこちらからの観点としてミクロに見ると確かに侵食は出るんでしょうけれどもやはり相対的にコンクリートを

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:02	っていうのは下部キャビティの壁面で厚さ1メートルで覆われてますのでそれに対するの侵食量、現状が約3ミリ程度なのでそこから少々増える程度って考えるやっぱり相対的に見るとその侵食量は小さいので、
0:46:19	クライテリアというかその侵食量の問題というか、部分に関しては保守的、保守的にはならないかもしれないんですけども、やはりその影響は小さいというところは他の不確かさの影響と同様に、
0:46:33	不要かなというふうに考えてます。
0:46:37	規制庁堀田ですけども、ここの説明って多分難しいかなと思うんですよね。PとBで状況が違うってのは、BWRの場合は、
0:46:47	径方向の侵食と決して楽観視できないような、
0:46:51	ものでして、Pは、さほどではないかなと今おっしゃったように、ベースマットの方、
0:46:58	なのかなという。だからといって報告していいってことではない。
0:47:02	ですよね。
0:47:03	やっぱり一つの論法として、
0:47:09	最初から水入ってますから、
0:47:11	そういう中でこのCCI実験ってあくまでドライの条件で侵食して途中で水を入れて、停止させると。
0:47:21	いう実験ですので、
0:47:23	初期条件が大分違うっていうところですよ。だからといって、
0:47:29	粒子化しないで、大量に溶けたまま以下に達した。
0:47:35	ものが、
0:47:37	W e tなので、
0:47:38	全然、
0:47:39	侵食量は少ないですよっていうほどの知見もないかなと。
0:47:43	いう気もして、
0:47:44	いるんですね。
0:47:45	いえる事ってのはやっぱり水が最初からあって、上でどんどん除熱されてるということをもって何か説明はできませんかと。
0:47:53	ドライのように、最初から活発に、
0:47:58	反応してくってわけじゃないですよ。
0:48:01	一方でCCIⅢの実験の入力を、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:06	信じて使えば、
0:48:08	これもしもドライ条件、
0:48:10	の場合ほとんどもない。
0:48:11	非現実的なことになるんで、それはとてもじゃないけども、そこは工学的、
0:48:17	選択しないと思うんですね。
0:48:19	だからそういうところをもって、現実には水が張られている。
0:48:23	確かにあれですね、デブリってのは、
0:48:26	ある面から大量に除熱されれば他の目ってのは、かなり侵食は軽減されるっていう現象ですので、
0:48:36	何かそういうところにも、もう少しロジカルな論法がありませんかというのがちょっと、
0:48:42	私の疑問ですから。
0:48:44	はい。北海道電力佐藤です今おっしゃっていただいた通りのやっぱりいろんな進め方、答えなのかなっていうふうに思っております、通着目すべきは床と壁面方向だけじゃなくてその水と接してる部分から除熱されるのでそちらからの
0:48:59	影響は小さいというところで、整理するのかなというふうに考えておりますので実際の解析を行うというよりは、今のようその定性的な説明で、
0:49:12	側面方向への熱流束を大きくしたとしても小さいっていうのを、ロジカルな部分で記載するのが正しいかなというふうに考えますのでそちらの方記載拡充するという形で、はい。対応したいと思います。
0:51:52	規制庁秋本ですちょっと今、比較表を見ててちょっとずっとしたんですけど、フロー、目次、ごめんなさい。
0:52:00	資料2-2の、
0:52:03	付録3の目次を見ていただきたいんですけど。
0:52:08	あれ。
0:52:08	LS-DYNAとかJASMINEで、
0:52:12	これ、目次に入っていないだけで作っているっていう理解でいいですか。
0:52:18	ない、ないんですか。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:20	はい青木です。正直作っておらず添付資料の方で簡単にコードの説明をしているというのが今のPWRのスタイルになっております。
0:52:33	規制庁秋葉ですね何ですかそれは、よく理由はよくわかんないですけど、やはり水蒸気爆発影響評価の位置付けの違いだというふうに考えてまして、BWRではやはりペデスタルが薄いところもありまして、水蒸気爆発の影響が、
0:52:48	大きい懸念されるというところで、比評価のグレードといいますか資料の位置付け的には
0:52:56	相対的に大きくなっているのかなと。それに対してPWRではあくまで下部キャビティ厚いコンクリートを割れてますので、水蒸気爆発、阿蘇発生しないというふうに考えてます仮に発生したとしても影響が小さいというところで、
0:53:08	現状はC、
0:53:11	解析コードの資料という形で17ページの資料までは作成していないというのが現状でございます。
0:53:24	一応たですけども、
0:53:27	このJASMINEの解析ってのは、トリガーが起きて、ACAが起ころころ全部前提にしたんですよ。これ参考になってんですね。
0:53:35	ええ。
0:53:38	起こる確率はっていうと、PとB層、
0:53:44	差をつけられるわけではないなど。
0:53:47	むしろBの方が、下部構造物がたくさんあって、
0:53:51	実際PRA上は、
0:53:54	どちらかというと特別扱いになってんですね。
0:53:57	ですので、
0:54:01	入れない。
0:54:02	理由としてはちょっと、
0:54:04	どうなのかなっていう気がします。
1:00:28	はい。規制庁秋本です。とりあえず、
1:00:32	今この目次ベースで、
1:00:36	見て、
1:00:37	もう、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:38	層位 L E R F になるのか、何て言うんすかね、理由がつくのかどうか、またちょっとご検討いただいて、回答してもらいます。
1:00:48	はい。青木です。そういう理由、
1:00:51	しっかりしたものが作れば作成す、説明させていただきますし、イマムラが難しければ資料作成する方向で検討したいと思います。
1:01:27	規制庁アキモトですそれではじゃ次の説明お願いします。
1:01:34	北海道電力入江でございます。次に技術的能力関連なんですけれども、
1:01:40	先に垂涎の時にコメントをいただいて 7 月 28 日にヒアリングでご説明しました。
1:01:50	炉心損傷時のドライアウトした S G の注水についてのご説明なんですけども、
1:01:58	資料 3-1 の
1:02:02	通しページが右下にあるんですけども 457 ページをお願いいたします。
1:02:27	はい前回から記載の適正化をしておりますし、まして修正箇所は黄色、ハッチングをしております。
1:02:39	最初のパラグラフのところに有効性評価についてのご説明を書いているんですけども 2 パラ目のなお、上記以外のというところ以降の記載ですけれども、
1:02:52	有効性評価の事故シーケンスにおいては補助給水ポンプによる S G への注水とか、
1:02:59	補助給水ピットへの補強、補給をすることによって S G がドライアウトにならないということを確認している旨をまず追記させていただきます。
1:03:09	その上で下の方の、一方炉心損傷後であってもというパラグラフのところの説明なんですけれども、
1:03:18	炉心損傷後であっても S G 注水による正の効果はあるので、ドライアウトとなっても可能な限り S G 注水することが望ましいというふうには考えてございますんで、
1:03:32	次のページに書いてございますけれども、
1:03:37	アクシデントマネジメントガイドラインではその性能効果分影響を考慮本部で評価した上で、
1:03:48	S G 注水を試みるというふうにしてございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:52	下の方に書いてある①番というところなんですけれども前回のヒアリングでもご説明しましたが、
1:04:01	蒸気発生器の二次側の健全性が保たれていればT I S G T Rが発生しない。
1:04:08	状況であれば、S Gの二次側へ注水できる可能性が高いというような知見もえられてございますので、この知見についてもアクシデントマネジメントガイドラインに反映しまして、
1:04:23	有効性評価の前提を超えるような状況、大規模損壊発生時等においても、このアクシデントマネジメントガイドラインに基づいてS Gの注水の実施を判断していくと。
1:04:39	ということで考えてございましてその旨を資料に反映してございます。
1:04:46	その他は事故シーケンスの名称を追記しましたり、正の効果負の影響を具体的に記載したり、記載の適正化を図ってございます。
1:04:57	この修正部分については以上になります。
1:05:03	堀田です。
1:05:04	当然かいいと比べてかなり踏み込んだ、記載をしていただきまして、
1:05:12	現時点では、こういう記載。
1:05:15	なのかなというふうに思う次第です。
1:06:20	規制庁アキモトですそれではその他、
1:06:23	何か
1:06:26	1.0以上でよろしいですか嘘。これなんかもちらほら見てたら結構形黄色ツガネか、直ってる箇所があったんですけど、記載の適正化ってことですか。
1:07:05	はい。北海道電力古谷でございます続けて技術的能力1.0のですね修正箇所について、
1:07:15	ご説明したいと思えます資料は3-1の本体側と3-2の比較表から3-3の適正化リストを用意してございます。
1:07:26	資料3-3の適正化リストの方。
1:07:34	開いていただきたいんですけども、
1:07:37	6月末に一括提出したのから変更箇所を載せてございます。資料の方には黄色ハッチングをつけてございます。
1:07:46	1ページ名の右上の方に備考欄で7月31日に一括提出したところ、時に、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:07:57	アノへ反映したものについてはそれがわかるように備考欄に記載をさせていただきます。
1:08:03	Dの資料3-3の適正化リストの43ページ。
1:08:09	に、
1:08:15	37月31日の一括提出時以降に適正化で修正したものを示してございます。
1:08:25	修正箇所はかなり多くなってるんですけど、他条文の反映事項がかなり多くてですね1.0は共通的なところがありましてちょっと数は増えて、
1:08:36	ございます。
1:08:37	主な修正仮称については比較表資料3-2を用いましてご説明させていただきます。
1:08:47	比較表の1-0の81ページをお願いいたします。
1:09:01	1ナンバーで93ページになります。
1:09:08	と比較表の、
1:09:10	はい。比較表の通しページ93です。
1:09:28	はい等級81ページの下のところですねもともと今黄色ハッチングでかけている総括班というところなんですけどもともと事務局という名称でございました。
1:09:40	運営支援組織のところの構成をここに書いてあるんですけども、
1:09:45	運営組織運営支援組織の事務局については事務的な活動のみを行う班ではなくって、
1:09:54	本部の運営支援対外関係機関への通報連絡等を含む総括的な業務を担っておりまして、それがわかりにくい名称というところもありまして、先行プラント、
1:10:07	玄海さんを参考にさせていただいて、佐々させていただいて総括班というふうに名称を変更してございます。
1:10:15	次1-0の91ページ、cページで103ページをお願いいたします。
1:10:25	2段落目に、本店対策本部の
1:10:30	構成とか、職務を記載してございます。
1:10:34	これまでは原子力部門とか流通部門といった部門ごとに記載、記載をしていたんですけども、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:44	実態として部門の中に班を設置しているということと、班ごとに職務を定めておりますし、班の責任者としても、班長も配置してございますので、
1:10:57	より実態に即した記載とすることが適切というふうに判断いたしまして、
1:11:02	班ごとの記載に変更してございます。
1:11:07	前修正前2回記載しておりました東京支社部門の技術班と総務班というのが、
1:11:14	岡井、ここに書いていたんですけども、
1:11:18	東京支社については本店の原子力班が行います。
1:11:24	官庁対応を支援する、リエゾンということで、
1:11:29	先行審査実績も踏まえてこの、
1:11:32	ここからは削除してございます。
1:11:36	それから、経理班からお客様対応班という、伴も記載していたんですけども、
1:11:44	どちらも直接的に発電所対策本部を支援する活動、
1:11:50	をする班ではないというところもあって先行審査実績も踏まえて
1:11:57	ここからは削除してございます。
1:11:59	これらのこの添付書類10になるところなんですけどもここからは削除しておりますが、まとめ資料の添付資料1-0-10という体制について、
1:12:12	記載した添付資料には詳細な本店対策本部の体制を示すということでそのまま記載は、
1:12:19	残した状態にしてございます。
1:12:21	江藤技術的能力の1.0の体制に関する説明は以上になります続いて、
1:12:30	屋内アクセスルートの関係の修正内容をご説明させていただきます。
1:12:38	北海道電力の山崎です。技術的能力添付資料1.0.2の保管場所及びアクセスルートの
1:12:44	資料について屋内アクセスルート一部主修正変更しておりますので、その他誤記修正を行っておりますので、資料3-1、A4の還付の資料使って変更概要をご説明させていただきます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:00	まずアクセス屋内アクセスルート変更についてですが、資料3-1の
1:13:05	右下通し316ページお願いいたします。
1:13:13	別紙30という資料にある屋内アクセスルート図の資料になってございまして、TP33.1メートルの階層を示している図面でございます。
1:13:23	原子炉建屋の東側は、変更内容ですけれども原子炉建屋東側に、屋外Bという吹き出しがございまして、その下に25番というのは今回、
1:13:36	操作場所として低下してございます。
1:13:38	この25番というのがですね、討議機能1.11の手順で、SFピットの線量を計測するための可搬型エリアモニターを、
1:13:49	屋外に置く場所になるんですけれども、ところ今まで場所が屋外ということで、屋内のルート図には書いてなかったんですけども、
1:13:56	可搬型エリアモニターの、その屋外に置く場所までのルートっていうのを明示的に示せていなかったということで今回追加して、
1:14:05	ございます。
1:14:07	他社さんもですね屋外に加わる内容でもアノオクない。
1:14:11	の図面で、明示的に示せるようなものっていうのは、この図面に書いてますんで、まとまりが固有の整理というわけではございません。
1:14:19	次の変更点ですけども右下319ページお願いいたします。
1:14:32	麻生。
1:14:34	はい319ページお願いいたします。
1:14:37	TPの17.8メートルの階層になりますけども、原子炉補助建屋の真ん中のタテですけど、その左側、すみません西側に、
1:14:48	あります。階段への吹き出しの、
1:14:51	ところの少し右下のところに41番という操作場所を今回追加してございます。
1:14:58	この41番というチェンジングエリア設置の資機材、
1:15:02	ドアの場所になりますけどももともとの配置としては、今ご説明した41番の少し下にある3335っていう、
1:15:13	ボックスですねこの部屋の中の北側の角の方にあったんですけども、そういう今回、場所を変更して、記載してます41番、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:23	1に変更してまして、新しい41番右下43ってのがあるんですけど、これが陳陣エリア設置する場所になってまして、資機材をその設置する場所の、
1:15:34	近くに置くような形で今回変更してございます。
1:15:38	変更した経緯としましては、屋内アクセスルートの地震時の資機材検討評価。
1:15:45	その中で資機材の移設対応を進めていく。
1:15:49	中でですね空きスペースができたということで、今回場所変更してございます。
1:15:54	で、この変更に伴って技能の1.16のチェンジングエリアの設置手順での中の手順内容であったり
1:16:04	想定時間の変更がないということは確認しております。
1:16:08	以上がルートの変更内容。
1:16:11	になります後ですね誤記修正ございまして、
1:16:19	えっとですね。
1:16:21	右下238ページ。
1:16:24	お願いいたします。
1:16:28	時習する数字を変更している。
1:16:31	部分になりまして、
1:16:33	第7-3表ということで有効性評価の事故シーケン数、
1:16:38	ことに制限時間のある作業というのを列記して、それに対する想定時間、有効性効果上の想定時間、移動時間作業時間、移動時間と作業時間を足した、
1:16:50	作業合計時間というのを、あまり表形式で整理、
1:16:53	しております。今回技能の手順がもうある程度固まったということで全部、
1:16:59	数字のチェックを改めて確認いたしまして移動時間、
1:17:04	であったり作業時間、想定時間の内訳になるんですけども、その時間に誤記が複数今回ございましたので、すべて50、
1:17:13	1枚ものの資料なんですけれども、
1:17:16	後期修正をさせていただいております。
1:17:20	その他にも文字の動き、
1:17:23	修正であったり適正化を行っております動きが複数ありまして大変申し訳ありませんでした。
1:17:28	屋内アクセスルートの説明は以上になります。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:35	規制庁秋本です規制庁側から何かありますでしょうか。確認事項。
1:17:42	一応、
1:17:45	特にないので、
1:17:47	次の説明をお願いします。
1:17:54	はい北海道電力古谷でございます続きまして技術的能力の1.2、資料の
1:18:10	資料の4-1、4-2、4-3をもちましてご説明いたしますと発電所の方から説明をお願いいたします。
1:18:21	はい。
1:18:22	泊発電所から、北海道電力太田でございます。
1:18:26	技術的能力1.2につきまして、前回の資料提出から、主な変更点について説明させていただきます。
1:18:35	説明資料につきましては、主に資料4-2。
1:18:39	の技能1点の比較表。
1:18:42	及び資料4-3。
1:18:44	記載適正化箇所リストを用いましてリスト内のき適正化内容から、3件ほど説明させていただきます。それではよろしく申し上げます。
1:18:56	まず1件目でございますけども、資料4-3の記載適正化箇所リストをお願いします。
1:19:09	資料4-3、適正化箇所リストからリストの1ページから2ページにかけて、ナンバー1からナンバー10の適正化内容。
1:19:21	でございますけども、手順名称の見直しを行っております。
1:19:27	見直し前の記載につきましては、当初は女川2号炉の審査実績を取り込むべく、可能な限り、女川2号炉の記載表現寄せた記載と、
1:19:39	していたものでございますけども、改めて記載の見直しを行った際に、PWRの記載としましては、オーナー大飯34号炉、
1:19:50	の審査実績を踏まえた記載表現が適切と判断いたしまして、元の先行PWRの記載表現へ戻す修正をさせていただくことといたしました。
1:20:03	1件目については以上でして続きまして2件目でございますけども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:07	同じく資料4-3の記載適正化箇所リストの2ページ目にあります。
1:20:15	No.11の適正化内容でございます。
1:20:20	一層の記載内容より実際の修正箇所、確認いただいた方がわかりやすいと思いますので、資料4-2比較表の2ページ目をお願いします。
1:20:40	資料4-2比較表の2ページでございますけども、ここにつきましてはもう目次を整理してございますけども、泊案の下段のところに、
1:20:52	CポストDぽつの手順項目が黄色ハッチングと。
1:20:57	なってる箇所がございますけども、修正前のこちらの手順の規制場所につきましては、比較表の次のページですね3ページ目にある、
1:21:08	上段に(2)の復旧という項目がございますけども、こちらの項目にて手順の手順を整理しておりました。
1:21:18	本審査項目の要求におきましては電動補助給水ポンプ代替交流電源を接続しまして十分な期間、運転継続できること。
1:21:28	ということを要求してございますので、囲みの復旧に整理する手順につきましては、女川2号炉と同様に、本審査項目の要求に合わせた手順を整理して、
1:21:41	主蒸気の場所での機能回復に関する手順につきましては、(1)側のクドウ元創通におけるツジからの除熱と、
1:21:50	いう手順の項目で整理することが適切と考えまして手順の記載場所を見直しを行いました。
1:21:58	2件目については以上でして、最後に3件目でございますけども、
1:22:02	同じく資料4-3の適正化リストから、4ページ目、お願いします。
1:22:11	4ページ目にナンバー1の適正化内容でございますが、中央制御室のみで対応する手順につきましては、操作増、成立性と、
1:22:22	いう項目操作時間を追記しましたという修正でございます。
1:22:27	基本的に減バー操作が伴う手順につきましては、各操作手順等に記載している、操作の成立性という項目にて、作業に要する時間を、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:22:38	記載してございますけども、中央制御室の操作のみで対応する手順につきましては、リストの適正化内容にあります修正前の記載の通り、
1:22:50	中央生活科の遠隔操作であるため、速やかに対応可能と。
1:22:54	しまして、大井 3534 号炉と同様に操作時間を記載しておりませんが、それら手順につきましても、ナンバー2 号炉の審査実績を踏まえまして、
1:23:05	フロントライン系、あとサポート系ですね、故障時の対応で整理している手順につきましては、すべて操作に要する時間を追記しております。
1:23:17	主な修正内容つきとしましては以上でして、それ以外の主リスト内の適正化内容につきましては、誤字脱字の修正や記載表現の適正化を、
1:23:30	行ったような内容でございますので、説明については割愛させていただきます。昨日イチタニの説明については以上でございます。
1:23:44	規制庁秋本です。1.2 は何かありますでしょうか。
1:23:49	はい、では、よろしければ次の説明をお願いします。
1:23:54	はい。北海道電力古谷でございます。続きまして1点、技術的能力1.4。
1:24:01	資料でいきますと、この15-25-3になります。
1:24:07	衛藤発電所から説明をお願いいたします。
1:24:13	はい。
1:24:14	泊発電所から北海道電力ヤマカワです。技術的能力1.4について、前回の資料提出からの主な変更点について説明させていただきます。
1:24:28	説明資料につきましては、資料5-2の比較表及び資料5-3の記載。
1:24:36	適正化箇所リストを用いまして主な修正点を3件ほど説明させていただきます。
1:24:43	まず資料5-3の規制適正化箇所リストをお願いします。
1:24:51	1件目になりますが、先ほど説明させていただいた技能1.2と同様に、手順名称の見直し、こちらが主要リスト、14分の1ページのナンバー1になりますが、実施しております。
1:25:08	また、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:25:11	操作の成立性の項目に記載する作業時間に関する修正ということでし適正化リストの14分の2ページのNo.10について、
1:25:21	先ほど説明ご説明させていただいた通り、速やかに対応できるといった記載から、具体的な時間を記載するという変更をさせていただいております。
1:25:32	続きまして主な修正点の2件目になりますが、
1:25:40	前用原子炉停止中における対応手順のうちサポート系故障時の対応手順につきまして、先行PWR、主に大井と玄海になりますけど、審査実績を反映する適正化を行いました。
1:25:55	適正化R I S等で言いますと、ナンバー3、5、8、5660になりますが比較表にて修正箇所を説明させていただきます。
1:26:05	資料を5-2の比較表、7ページをお願いします。
1:26:13	こちら目次の部分になりますが、大井に合わせまして燃料取替用水ピットからの重力注水による原子炉要求の注水手順、
1:26:24	こちらと、代替格納容器スプレイポンプによる原子炉系の注水順位注水手順、こちらの優先順位を入れ替えております。
1:26:33	続きまして比較表59ページをお願いします。
1:26:39	こちら、使用する設備を記載する、列記している箇所になりますが、こちらについても優先順位の入れ替えを反映しております。
1:26:48	続きまして比較表165ページをお願いします。
1:26:57	165ページから166ページまで操作手順を記載しているところになります。
1:27:05	修正前の、定修のサポート系故障の対応手順につきましては、フロントライン系故障時の遠隔操作手順を参照することとしましたが、
1:27:17	大井と玄海の実績を踏まえまして現場操作による磁力注水手順を追記することにいたしました。記載内容につきましては、大分限界どちらかに
1:27:32	この反映したものになります。
1:27:36	続きまして、比較表の183ページをお願いします。
1:27:44	183ページでは、重大、事故当時の対応手段の選択方法の記載箇所になりますが、今まで説明した優先順位の変更。
1:27:57	手順の変更を反映し大飯玄海伊井の審査実績を踏まえた記載となっております。
1:28:05	続きまして比較表の335ページをお願いします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:28:11	335 ページから 337 ページにかけましては
1:28:17	概要図とタイムチャート、燃料取替用水ピット等からノジリ口水の概要図タイムチャートになりますが、
1:28:24	こちらにつきまして
1:28:28	もともとなかった、その操作手順の現場操作が
1:28:34	増えたということで概要図とタイムチャートを変更しております。
1:28:39	続きまして比較表の 359 ページをお願いします。
1:28:47	359 ページでは、フローチャートになりますが、サポート系故障時の重力治水の低優先順位、こちらを入れ替えましたのでフローチャートにも反映しております。
1:29:00	続きまして比較表の 457 ページをお願いします。
1:29:06	457 ページでは現場操作手順を追加したということで、そちらの操作の成立性を説明する添付資料、こちらを新規作成しております。内容につきましては大井と同様になります。
1:29:22	資料 5-3 の続き次は 3 件目になりますけども、主な説明事項の 3 件目となりまして、資料 5-3 の記載適正化箇所に戻っていただきまして、
1:29:36	リストの 14 分の 3 ページ。
1:29:43	リストのナンバー 12 ですが、こちらでは、タイムチャートに関する修正を行っております。
1:29:52	中央制御室のみで実施する相対につきまして女川の審査実績を踏まえてタイムチャート要否を再確認いたしまして、必要な対応手順につきまして新規作成しました。
1:30:06	タイムチャートの要否を検討しましてタバタ不要と整理したのは、通常の運転操作、
1:30:15	である手順と、設計基準拡張の手順に該当する手順となります。それ以外についてはすべて作成することにしておりまして、この考え間考え方で技術的能力 1.4 に追加したタイムチャートは 4 件になりまして、
1:30:31	比較表でいきますと、291 ページの、充填ポンプによる原子炉容器への注水のタイムチャート。
1:30:40	306 ページの、高圧注入ポンプによる高圧再循環運転のタイムチャート。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:30:47	332 ページの、高圧注入ポンプによる原子炉系の注水のタイムチャート。
1:30:52	最後になりますが、燃料取替用水ピットからの重力注水による原子力用系の注水のタイムチャートのうち、上段にありますフロントライン系故障時のタイムチャートとなります。
1:31:08	主な修正箇所、工程につきましては以上になりまして、それ以外のリスト内の適正化内容につきましては誤字脱字の修正ですとか、条文内や条文間の表、整合の観点から、
1:31:22	記載表現を適正化した内容でございますので、説明については割愛させていただきます。
1:31:28	こちらから説明は以上になります。
1:31:33	規制庁秋本です規制庁側から何か確認ありますでしょうか。
1:31:43	規制庁の平本です。
1:31:47	中央制御室からの操作で、速やかに対応できるっていうやつを、時間をですね、記入した話ですけども、
1:31:58	これは他の技能もみんな、そういうところがあると思うんですけども、
1:32:03	全部修正していくということなんでしょうか。
1:32:12	発電所から回答できますか中央制御室の操作に関してすべて5分以内或いは時間を変えてすべて修正するということで、
1:32:25	よろしいですか。
1:32:32	はい、発電所から。北海道電力山川です。8月末の一括提出版で反映させていただくということで
1:32:42	おっしゃる通りになります。例えばですけども技術的能力1.7でもそのような修正箇所があります以上です。
1:32:55	既設ヒラモトです。了解しました。それでですね、
1:33:02	と例えば、
1:33:06	比較表の資料5-2の比較表の、
1:33:10	188 ページ。
1:33:13	2ですね。
1:33:14	同じような場所が、
1:33:16	ありまして、真ん中ぐらいに、操作の成立性のところで、
1:33:21	こうこう、速やかに対応できるということで、昔のままなんですけどもこういうふうに残したところ等それから、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:33:31	5分っていうふうにしたところと、その違いはどういうところにあるんでしょう。
1:33:37	北海道電力古谷でございます。
1:33:40	ここの部分については、重大事故等対処設備の（ア）の設計基準拡張による対応手段というところを整理しているところでございます。
1:33:51	比較表のですねその次のページ1.4-189ページを
1:33:58	下ご確認いただきたいんですけども、女川さんと並べて比較してございまして女川さんも、
1:34:07	ここに設計基準拡張デービーの使い方と同じというところもあって時間まで記載しないというのが、先行事例ということで確認をしましたのでまず
1:34:21	重大事故等対処設備括弧設計基準拡張に対応する手順についてはそこまで記載しないという方針でございます。
1:34:30	あとその他、当発電所から補足ございますか。
1:34:49	はい、発電所から北海道電力ヤマカワです。今、古谷が言った通り、女川の3の審査実績を反映しまして、DB拡張の手順につきましては、
1:35:02	具体的な0分以内、何分以内というのは記載しないというのを確認しておりましてそちらを反映しております。
1:35:09	以上になります。
1:35:14	特性とヒラモトです。
1:35:17	そこは理解しました。
1:35:19	それから、
1:35:29	適正化リストの
1:35:31	14分の5ページの下から二つ目のところですね。
1:35:38	ちょっとこれ、
1:35:40	原本確認まだしてないんですけども、ここのところは速やかに対応できるってやつを1名にて実施するっていうふうにですね。
1:35:46	変えるわけです。これはどういう理由なんですか。
1:35:52	北海道電力古谷です。日英、
1:35:57	適正管理24番のところろの記載について、発電所から回答できますか。
1:36:06	はい少々お待ちください。
1:36:32	はい。北海道電力山川です。比較表の121ページの

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:36:40	内、
1:36:47	121 ページのところの手順になるかと思いますが、こちらの手順につきましては、残存
1:36:54	用ロシアへ溶融炉心が、原子炉容器内に残存する場合の対応手順になってまして、対応手順につきましては、いくつかの対応手段、
1:37:06	をですね比較表の 1.4 の 120 ページのところから 121 ページにかけて、列記しているようなそういう手順になってまして、具体的にそれは何何分以内というふうに書くのは難しい部分がございます、
1:37:21	こちらにつきましては大井の実績を確認しまして時間を書かずに、中央制御室 1 名で実施可能ということで記載をさせていただいております。
1:37:40	規制庁ヒラモトです。幾つかの手段があって、ここにも書くんではなくて、
1:37:50	1 ミリで実施するという共通のこと話だけをここに書いてあって、
1:37:55	それは大井と同じですと。
1:37:57	ということでしょうかね。
1:37:59	北海道電力山川です。その認識で間違いございません。以上です。
1:38:07	規制庁平本です。私からは以上です。
1:38:13	規制庁秋本です今の話なんですけど、これってだったら、そういう理由。
1:38:19	稚内なんか記載すること難しいって言っちゃってそこが意味わかんなかったんですけどちょっともう 1 回説明してもらっていいですか。
1:38:34	発電所、発電所から回答できますか。
1:38:48	少々お待ちください。
1:38:55	北海道電力の藤田です。ちょっとすいません難しいってのは語弊があったのかもしれないんですけども、
1:39:03	これ、先ほどヤマカワ申し上げた通り、個々の手順の組み合わせになってまして、その個々の手順は、どこか頭に書かれてるものですんで、それをコウコレートするようなものになってしまうと書くとしてもですね。
1:39:16	はい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:39:19	多分多岐にわたりますのでズラーツと同じようなことを書いてタイムチャートで示すとしても、
1:39:24	なかなかこう表現しにくいなというところもあって先ほど難しいというふうに申し上げたものです。
1:39:31	はい。ただ何かその辺の説明が足りてないかなと。これ本当にレアケースといいますか例外イデして、他は先ほど申し上げた速やかに、
1:39:40	が書かれてたり、時間がしっかり書かれていますんで、この例外ケースは、確かに理由が必要かなというふうに思いますんでちょっと
1:39:48	理由を、
1:39:50	どこかに記載するような形にしたいなというふうに思います。
1:39:56	規制庁秋本ですとりあえず理解しました。
1:40:05	規制庁アキモトですそれでは数、
1:40:08	跡継ぎはあるんですけど。もうこれでおしまいでよかったでしたっけ。
1:40:13	はい、じゃあ北海道電力からの説明は以上ということでもよろしいでしょうか。
1:40:23	はい。
1:40:24	北海道電力は特にございません。はい。
1:40:30	規制庁秋本です規制庁側から、全体通して何かあります言い忘れたこととかあれば、
1:40:38	宮尾ですけど、お願いします。
1:40:41	特に細かいところにそれぞれ条文についてどうこうというわけではないんですけど今、対津波の方で、
1:40:52	防潮庭の高さの変更の話があります。
1:40:56	それによって、
1:40:58	何かその手順側にはねるような話っていうのは、今あるんでしょうか。
1:41:18	北海道電力の藤田です。
1:41:21	ですね、今明らかになってるのがモニタリングポス等の手順書ですね技術的能力、1点。
1:41:29	17、
1:41:30	は明らかに、
1:41:32	影響があるかなというふうに考えてます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:41:35	その他は、
1:41:37	手順書上はないですけどアクセスルート側はもちろんいろいろと影響があるというふうに考えております。以上です。
1:41:46	微妙ですけど、
1:41:48	多分一度それをまとめてもらわないといけないかなと思っていて全体に影響ある、ある可能性のあるのはピックアップされてればされるようにしとかないと、全体何か影響を与えるってところのポイントは我々も認識しようがなきゃいけないと思うので、
1:42:09	リストなり項目っていうのはある程度まとめられそうですかね。
1:42:16	北海道電力の岡田ですけれども今その辺我々の方でも当然今まとめてまして、どっかで説明させていただこうというふうに考えてございます。
1:42:27	上本ですけどわかりました私から以上です。
1:42:34	規制庁秋元です。それではその他なければ、以上ですが、
1:42:38	よろしいでしょうか。はい。それではじゃ、本日ヒアリングを終了しますお疲れ様でした。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。